



発行所  
徳島市雑賀町  
東開21番地1  
一般財団法人  
**徳島県遺族会**  
TEL (088) 636-3212  
FAX (088) 636-3213  
http://izokukai.jp/  
発行責任者  
増矢 稔  
印刷  
グランド印刷(株)

明けましておめでとうございます

一般財団法人徳島県遺族会会長 増矢 稔



ご遺族の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、日頃は当遺族会活動につきまして格段のご支援ご協力を頂いておりますことに對し、厚くお礼申し上げます。

昨年、戦没者の顕彰と悲惨な戦争・平和の大切さを語り継いでいくための施設「徳島県戦没者記念館―あしたへ―」はこれまでに、会員の皆様方のご来館、特別展やパネル展の開催などによ

り、平成二十六年十月五日の開館以来、二万人を超える多くの方々にお越しいただきました。

また、記念館を「静」とするなら「動」と位置付けしております「語り部事業」につきましては、毎月第二土曜日に開催し、これまで二十七回を数え、千人を超える方々に、ご参加をいただいております。

この流れを加速し、さらに多くの皆様にご来館いただき、戦争の史実を風化させず、命と平和の尊さを次世代に語り継いで行くことが、当館に課された重大な使命であります。

この達成のためには、これまでお越しいただいた方々に加え、これまで

当館に来館いただいたことのない若い世代の方々、特に、小中等学校の児童、生徒の皆様にご来館いただくことが、重要であると考えております。

このため、この度、記念館の「プロモーションDVD」の製作や「語り部事業」を収録したDVDの「貸出リスト」の作製、小中学校が当館をご利用いただく際に活用できる「来館支援制度」の創設、沖縄戦をテーマにした紙芝居の製作を進めてまいりました。

現在、各地区役員様が、これらの資料を基に、直接地元の小中等学校をご訪問いただき、児童、生徒の皆様への積極的な来館について、要請をいた

だいているところであります。今後とも多くの皆様にお越しいただけるよう、魅力のある展示や利用しやすい環境作りに努めて参ります。

また、処遇改善では、遺族会の組織を挙げての運動の結果、年五万円、五年償還の国債を五年毎に二回交付することが決定され、現在、その手続き中ではありますが、償還額が増額されたのは、実に二十年振りであります。これを契機として、英霊顕彰と遺族の処遇改善を次代に伝えるため活動資金の造成を図ることが日本遺族会の「終戦七十周年記念事業」として決定されており、本会もこれを受け、基金の造成を進めております。

地域の財政基盤強化のため、募金額の半額を各地区遺族会への還元、戦没者を見送った家族像の建立を目的に、基金造成に取り組んでおりますが、会員の皆様には、何卒ご協力賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

「青年部」につきましては、遺族会行事への参加と協力を積極的にお願ひするとともに、「孫・曾孫の組織化」は喫緊の課題であり、引き続き支援してまいります。

今年も組織として一致団結し、力強く前進してまいりたいと考え、お祈りいたしますので、会員各位のご理解・ご協力をお願いいたします。結びに、ご遺族の皆様方の益々のご活躍とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

謹賀新年

平成二十九年元旦

徳島県遺族会

会長 増矢 精二  
副会長 吉川 喜代志  
上浦 敬二  
福田 一徳  
萩原 克彦  
坂下 豊彦  
木下 幸江  
近藤 年江  
井上 和晃  
緒方 子晃  
上田 憲夫  
南濱 正浩  
花枝 吉浩  
池添 哲哉  
池原 良明  
松原 重昭  
大栗 重喜  
後藤 重喜  
小笠 重喜  
東 孝功  
谷 孝功  
亀代 高孝  
延藤 敬一  
近藤 弘一  
武田 公一  
長谷 邦男  
高井 勉  
阿部 健夫  
田村 清夫  
岡井 百合子  
住友 信二

英霊にこたえる会徳島県本部

会長 中西 祐介

徳島県護国神社

宮司 坂田 敏郎

事務局職員一同

新年のご挨拶

文部科学副大臣 内閣府副大臣 一般財団法人日本遺族会会長 参議院議員 水落 敏



ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。

昨年には熊本地震、鳥取地震や、台風などの自然災害により多くの地域で甚大な被害が発生しました。被災され、いまだに自由な暮らしを余儀なくされている皆様は心よりお見舞いを申し上げます。

今後とも政府・与党一丸となって、復旧復興に全力を挙げて参ります。

昨年は天皇皇后両陛下のフィリピンご訪問、オバマ大統領の広島訪問、安倍総理の真珠湾訪問など、世界の恒久平和を願う出来事がたくさんありました。

中でも天皇陛下が象徴としてのお務めについて、直接国民にお話しになられたことに、強い衝撃を受けました。

陛下のお言葉を拝聴し、改めて戦没者とその遺族に対し、常にお心を寄せ続けていただいたことへの感謝と共に、両陛下

下が身を持ってお示しくださいました「戦争の記憶を風化させない」ということを、日本遺族会会長として、いかに取り組んでいくか、重い課題を頂いたと受け止めています。

日本遺族会は本年創立七十周年を迎えます。本会の喫緊にして最大の課題は後継者の育成であり、その為、本会はもとより全国においても、後継者である青年部結成の活動に力を注いでいます。

戦争の風化を防ぎ、平和を語り継ぐことは、私たち遺族会に課せられた社会的責務であり、本会の創設理念であります。平和で豊かな時代に生まれた世代である「青年部」の結成は容易ではありません。しかし両陛下が折に触れお話し下さった「戦争の風化への危惧」「恒久平和の尊さ」を私たち遺族会が決意を新たに粘り強く発信し続けて参りましょう。

また、ご遺骨の収集を「国の責務」と明記した遺骨収集を推進する法律が、昨年三月成立しました。戦後七十一年余りが経過してもなお、未だ百十三万人のご遺骨が海

外においてそのままになっている現状を、この法律の報道で知られた方もおられるでしょう。

私は、こうした現実を報道機関や学校教育を通じて伝えることこそが、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えるきっかけになると考えており、この法律にはそうした意義も含まれると思っております。そしてご遺骨の収集が推進されるよう、日本遺族会はこれからもあらゆる協力を重ねて参ります。

最後に昨夏の参議院選挙において、三期目の当選を果たすことが出来ました。加えて安倍改造内閣において、文部科学副大臣・内閣府副大臣を拝命いたしました。改めて皆様に頂戴しました温かいご支援を深く胸に刻み、与えていただいた使命、職責を全うすべく、真に豊かで安定した平和国家構築の為、教育施策の充実に精進努力を重ねて参りますので、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ご遺族皆様のご健康と平成二十九年がより良い年でありますことを心から祈念しご挨拶といたします。

平成 28 年 慰霊祭・追悼式実施一覧表

Table with 3 columns: Date, Location/Event Name, and Venue. Lists memorial services for war victims across various municipalities in Tokushima Prefecture for the year 2016.

平成 28 年度 吉野川市戦没者追悼式

吉野川市では、平成22年度において市遺族連合会が市長及び関係機関に対し、児童・生徒の平和教育の一環として、市内中学生の市戦没者追悼式への参列を要望し、平成23年度から毎年市内中学生が参列している。平成28年度については、平成28年11月12日(土)に行われた市戦没者追悼式に市内中学生8名(市内5校、参列者総数約350名)が参列し、生徒代表が誓いの言葉を述べた。



お慶び

厚生労働大臣表彰



平成28年12月8日受賞
徳島県遺族会 副会長
徳島市遺族連合会 会長
上浦 喜代志氏



阿波市遺族会 監事
大俣地区遺族会 会長
井内 貞利氏



徳遺県遺族会 前理事
日和佐町遺族会 前会長
喜和田 年氏

多年にわたり県遺族会、市郡遺族連合会等の役員として、組織の発展、会員の福祉の向上に貢献された功績により表彰を受けられました。心よりお慶び申し上げます。

顕彰には今後も万全を期して参りたいので、ご遺族を始めご参列皆様には、神社の祭典や行事には更なるご協力をお願いしたい旨挨拶を述べ、全ての祭事が終了した。尚、本年の例大祭は、徳島県護国神社が先般七月一日から、神社本庁別表神社に加盟されたことを受け、その奉告祭も兼ねて執り行われた。

平成二十八年年度護国神社例大祭齋行さる
去る十一月二日、恒例の護国神社例大祭が厳粛且つ盛大成裡に齋行された。当日は、天候にも恵まれ、近藤宏章護国神社奉賛会会長を大祭委員長とし、徳島県知事代理吉田英一郎保健福祉部部長・増矢稔徳島県遺族会会長・喜多宏思徳島県議会議長・石川智能徳島県町村会会長をはじめ関係各方面から約五十名の来賓を迎へ、また県下各地からは遺族約九百名が参列した。

祭典は、午前十時三十分上浦喜代志奉賛会副会長が大祭開始のことばを述べ、国歌斉唱国旗の掲揚が行われ神事へと移った。神事では、先ずお祓いを受け、坂田敏郎宮司の祝詞奏上につづき県神社庁理事熊代美仁献幣使が幣帛を奉り祭詞を奏上、そして近藤奉賛会会長・吉田県知事代理・増矢遺族会会長がそれぞれ祭文を奏上し、今日の我々の発展は、英霊の尊い犠牲の下に築かれたものであり、ご祭神に対し感謝の誠を捧げるとも、高齢化したご遺族の生活支援、そして島の発展等に鋭意努力していくことが誓われた。

続いて、来賓や各市郡遺族代表ののち、世界の恒久平和を祈念し風船が天高く放たれた。終りに、近藤奉賛会会長が、ご祭神の奉慰



戦没者記念館だより

平成28年4月から12月までのアンケート調査結果については以下のとおり。(対象者398名)

▶ アンケート概要

- ①【来館のきっかけ】は、「遺族会」30%、「家族」20%、「新聞」12%の順。
②【来館の目的】は、「展示の観覧」(36%)、「遺影を見るため」(25%)が多いが、「命日祭」も14%。
③【来館されての感想】は、「非常に満足した」が44%、「満足した」が48%と、両方を足すと92%。
④【来館者の年齢等】は「70歳代」が31%で一番多く、次いで「60歳代」17%、「50歳台」15%、「40歳台」11%、「80歳台以上」12%、「20歳未満」6%、「20歳代」「30歳台」各3%の順。60歳以上が60%を占める。来館者の遺族の割合は52%。

▶ 来館者の感想等(自由意見:39の意見から抜粋)

私の曾祖父が戦争に行き、亡くなりました。今回、写真で会うことができ、戦没地等を知ることが出来て嬉しかったです。展示や曾祖父の写真を見て、平和を大切にしていきたいと思いました。(20代女性)

- 父の兄が戦死しており、父は毎年護国神社に来ていました。記念館が出来たことを知り、亡き父に報告の思いもあり来館しました。今度は小学生の孫と来たいと思います。学校の授業の一環として来館し、子供たちに戦争について考える機会のもててもらいたいと思います。(60代女性)
新聞を見てパネルを見たいと思って来館した。焼野原から復興していった昔の人の苦労を思います。テレビで戦時中、戦時後のシーンがあるが、苦しさや辛さが出てこない。パネルの力はすごいと思う。写真は初めて見るものばかりで、皆が力を合わせて復興する力強さは凄い。(60代男性)
知人から聞き、パネル展を見に来館した。1945年は小学5年生で、焼ける赤い空を覚えてるくらいで空襲被害がどの程度か知らなかったが、パネルを見て改めて酷いことを知った。遺影写真の中に、兄の知人とおぼしき方の姿を見つけて感動した。(80代男性)
男2人女2人の長兄は末っ子の私をめぐらの中に抱いて、よくハーモニカで童謡を吹いてくれた優しい兄だったが、17歳で海軍へ。行年20歳で戦死の知らせを聞き、那賀川の土手で声をからして泣いた。この館で永久に保存され、折々に会いに来たいと思っている。(80代女性)
戦後に生まれた私ですが、この館に来るたびに平和への思いを強くします。多くの人にこの思いを共有してほしいと願います。(60代男性)
戦中、戦後の思い出を胸に館内を拝見しました。有意義なパネル展でした。日本の未来に希望の光がさすことを心から願っております。(70代男性)

「徳島大空襲」パネル展について

先の大戦から、既に七十年以上が経過しましたが、徳島県も戦争の惨禍に見舞われ、特に徳島市は「徳島大空襲」をはじめとする幾度にも亘る空襲により、焼け野原となり、戦後、厳しい環境からの再出発となりました。

しかしながら、現在では戦争を知らない世代が人口の八十%を超え、日本が、徳島が、戦争の渦中にあつたことを実感できない人々が増加してまいりました。

「徳島県戦没者記念館」は、来館者に先の大戦等に関する歴史の事実を正しく伝え、戦争と平和について考えていただくことを目的として建設された県内唯一の施設で、開館から約二年数ヶ月で約二万人の来館者を数えています。さらに多くの皆様にご来館いただき、戦争の史実を風化させず、



徳島県戦没者記念館 第三回特別展 「戦傷病者とその家族展」の開催について

命と平和の尊さを次世代に語り継いで行くことは、当館に課された重大な使命であります。このため、今回、当館では「徳島大空襲」を題材に、十二月一日(木)から二十一日(水)まで「徳島県立文書館」のご協力によりパネル展を開催いたしました。

このパネル展では、空襲前、空襲後また終戦後の徳島市の状況を当時記録した「写真・パネル」により、その事実をお伝えしました。

約三週間の期間ではありましたが、七百人を超える来館者にお越しいただき、現在とは余りにもかけ離れた被災後の市内のパノラマ写真を見て、驚きを隠せずにはいられない方や、若い方にご自身の被災体験を真剣に話される方など、来館者の皆様に、戦争と平和について、今一度お考えいただくきっかけを提供できたものと考えています。

今後とも、工夫を凝らした展示を企画して参りますので、会員の皆様も、今一度機会を捉え足を運びいただきますとともに、お若い方々を中心に、新たに来館いただける方々へのお声かけもお願いいたします。

先の大戦では、戦場で多くの方々が亡くなりになられたが、また、戦場での受傷・病気の発症などの「戦傷病」を受けられた多くの方々とその家族がいらつしやいました。

「戦傷病者」の皆様は、受傷・病気の苦しみ、就労の難しさによる経済的な困窮、そして目に見えない精神的な労苦を強いられてきました。

しかし、戦後七十年以上を経過し、「戦傷病者」とその家族が高齢化するなか、周囲の人々が「戦傷病」を理解することはますます難しくなっています。

今回の特別展では、当時の写真を基にしたパネル、証言集や証言映像等により「戦傷病者」とその家族一人ひとりが複雑な思いを胸に、戦中・戦後を歩んでこられたその実相をお伝えします。会員の皆様・ご家族の方々をはじめ、ご近所やお知り合いの方々にもお声かけをいただき、多数ご来館くださいますようお願い申し上げます。

平成29年1月7日(土)～15日(日)

平日 / 9:00～16:30

土日 / 10:00～16:30

場所: 徳島県戦没者記念館-あしたへ-

徳島市雑賀町東開21-1 電話: 088-636-3212

主催: 一般財団法人徳島県遺族会

徳島県戦没者記念館奉賛会

協力: しょうけい館

入場無料

※写真の戦傷病者の方は、南方で受傷され、左腕を切断されました。戦後は小学校の先生として働かれています。(写真提供: しょうけい館)



第五十一回 沖繩「徳島の塔」慰霊巡拝

平成二十八年十一月十四日(月)から十六日(水)の三日間、沖繩「徳島の塔」慰霊参拝が実施された。増矢総会長を団長に、七名が参加しました。

「徳島の塔」が昭和四十二年十二月に建立されてより五十一回目を数え、徳島県からは大西英治保健福祉部副部長、福井明生地域福祉課課長補佐に参加いただきました。

慰霊祭は、糸満市摩文仁ハンタ原「徳島の塔」前広場で、沖繩県、沖繩県議会、糸満市、沖繩県



遺族連合会、沖繩徳島県人会等の関係者のご臨席のもと、厳粛に執り行われました。慰霊祭には、昨年に引き続き、女性部の皆さんが千羽鶴を折り、「徳島の塔」慰霊祭に持参してくださいました。

祭典は、沖繩県観音寺元山善弘住職に読経いただき、その後、増矢会長が慰霊のことばを述べた。また、県知事の慰霊のことばを大西英治保健福祉部副部長が代読し、続いて議長の慰霊のことばを福井明生地域福祉課課長補佐に代読いただきました。参列者焼香の後、閉会いたしました。

慰霊巡拝団は、糸満市摩文仁地区の「徳島の塔」、「平和の礎」のほか、沖繩県護国神社、糸満市「ひめゆりの塔」、豊見城市の旧海軍司令部壕「海軍慰霊の塔」に参拝を行いました。

語り部事業講演要旨

●第25回語り部事業 10月8日(土) 「沖縄の海」

富積 吉子氏 (87)



会の日下先生のバラの油絵、弟の水墨画、妹は書で。皆さんの善意が寄り添って完成したような歌集になりました。

父は、私が小学校6年生の昭和16年夏に出征。戦死したのは、20年3月ルソン島カガヤン州ブギオという小さな村だと聞かされました。

私が初めて歌に接したのは小学校6年生の夏の事です。当時、大阪の堺市に住んでいたのですが、入隊する父を送りがてら、ちょうど夏休みだったので最後の家族旅行のつもりだったのでしょいか、廻り道をして宇高連絡船で父の故郷である鴨島町に帰って来ました。

夕闇迫る瀬戸内海の情景や父と別れる淋しさ、楽しそうに走り廻る弟や妹、それを黙って見ている両親の顔など、子供なりに感じた事を作文に綴り、国語の時間に発表したのですが、途中で悲しくなって泣き出し読めなくなったので、後は先生が読んで下さった事を覚えています。その作文の最後に「大君の御楯(みたて)となりて征く父はこれが最後の別れなるかな」の一首があります。これは、戦争で死ぬかもしれない不安を否定したいという、精一杯の反抗の思いを詠んだものでした。その幼い日の思い出が強烈に残っているためか、昨年、宇高連絡船が廃止になった時に「幼き日征く父送りし瀬戸の海渡りし船も父も還らず」という一首を詠みました。

私達が疎開で田舎に帰って来てすぐの昭和20年に父は戦死、その後、私が19歳の厄年の時、母が40歳で心労から脳溢血で倒れ、意識不明で生死をさまよひ、医師からも見放され、私は神仏を恨みました。

でも8日目に生き返ってくれました。幼い子供を残して死ねなかつたのか、それとも父が助けてくれたのか、第一声の発した言葉が「よっちゃん」私の名前でした。それを聞いた時の喜び、飛びつきました。何時息が絶えるかと一人、寝息ばかりうかがっていたものですから…。母が生きていてくれる。それだけで、

今年1月に、父を詠んだ歌を重点にした「陽だまり」という歌集を出版しました。表紙絵は鳴門短歌

天にもものぼる嬉しさとはこの事かと、今でも忘れられません。後に51歳で急逝し、父より少し長生きしたとはいえ、精神的、肉体的にも苦しかったと思います。母も戦争の犠牲者だと、今でも思っています。

一時は姉弟達、親戚の家にばらばらになるところでしたが、私が反対し、病気の母を守って、皆苦勞しましたが、肉親の愛情、父より譲り受けた丈夫な体に感謝しながら、現在残された弟妹仲良く5人揃って元気に暮らしています。

また、父に纏わる奇跡としか言いようのない不思議な体験をしました。父を訪ねるルソン島慰霊の旅は高齢のため諦めていましたが、孫の発案で沖縄の旅が実現し、そこで、父を偲ぶ短歌12首を短冊に書き、沖縄からルソン島の父に届けと願いをこめて海に流そうと思ったのです。

沖縄に着き、さてこの短冊をどうするかと困っていたところ、3人のサーファーの方々と出会いました。その一人に事情を話し「沖の方へ行った時、これを海に流してくれませんか」とする思いで短冊入りの封筒をさし出しました。「還らざる父に捧ぐ 有持秀一様」とマジックで大きく書いた名前を見て、「僕の名前と同じだ。」と言われた時は一同が驚きました。後に「国場秀一さん」と言うお名前とわかりましたが、偶然とは言え、この御縁の不思議に唯々涙が溢れ、ひと言も言えませんでした。名前だけでなく、目の前に父が現れたように思え、私はその太い腕にすがっていました。心が少女に戻っていたのです。「これは責任を持って必ず遠くに流します」と言うので、すぐに海に入っていました。姿が見えなくなるまで見送りました。

今、振り返って思うに、私が短歌を作り始めたのは、父を詠む事が供養になると思ったからです。また、現在87歳の私が歌集をまとめたと思ったのは、子や孫たちの戦争を知らない若い世代に、戦争の悲惨さを伝えて行かなければならない使命があると考えたからです。亡き父には幸いにも私達子供が残りましたが、たった一人で短い人生を閉じざるを得なかった、特攻の優秀な若者たちのことを思えば胸がつまります。

過去の戦争により多くの尊い命が、お国の為に捧げられた悲哀を、二度と繰り返してはならないと大声で叫びたいのです。戦争で亡くなられた方々の、御冥福をお祈り申し上げると共に、日本の明るい未来が、千代に八千代に続く事を願ってやみません。

●第26回語り部事業 11月12日(土) 「学徒勤労報国隊として」

村主 ウメ氏 (87)



女子は就職等で、本科に進むときには20名程になっておりました。

本科の1、2年では、缶詰工場で春はタケノコ、秋は栗の皮むきと勤勞奉仕の連続でしたが、3年になると竹槍の訓練、怪我をした時の三角巾の使い方や召集兵の見送り等で、勉強になりませんでした。

その後、本科3年の5月に学徒動員になりましたが、兵隊さんに召集令状が来たのと同じで、氏神さんで壮行式を行い、町長さんをはじめ皆さんが駅まで見送ってくれ、東洋紡績小松島工場に派遣されました。

担任の先生と一緒にでしたが、見たこともない工場の大きさに驚かされました。ただ、工場の中はホコリで真っ白、マスクも無く、月月火水木金金でほとんど休みもない状態でした。

仕事を教えてくれるのは、先に高等小学校を卒業して働いていた同じ学年の子でしたが、憶えることが多く、糸を扱うのも大変で、特に雨の日は切れやすく、苦勞の連続でした。

食事量も少なく、粗末で米のご飯など一回も無く、私達は、何で、こんなところでいるんだろうと何回も思いました。また、給料はもらえましたが、今の人には信じられないでしょうが、物資がなく買う物が何も無い状況でした。

そうこうするうちに誰が言い出したか、皆で工場から脱出しようと言うことになり、工場の裏門から抜け出し、汽車で家に逃げ帰りました。程なく、連れ戻されましたが、校長先生が会社についていってくれましたので、会社からのおとがめもありませんでした。

高等小学校では卒業時に生徒が120名いましたが、男子は義勇軍や満蒙開拓、

その後、戦争は益々激しくなり、食事でも踏んでいない麦や大豆の絞りがすになり、味噌汁も干し大根の葉っぱとなっていました。ただ、私達だけでなく上役の人と同じ待遇であったため、辛抱しなければと思え我慢して仕事に励んでおりました。

当時は、戦争に負けるなどとは思わず、必ず勝つと信じていました。

休みの日には、「日峰さん」に登り武運長久を祈っていましたが、戦況はさらに悪化し、工場の近くにも爆弾が落とされ、工場を狙ったのではないかと皆が言いあいました。また徳島大空襲の7月4日には、一晩中防空壕の中で過ごしましたが、時々壕を出ては徳島方面を見ると、真っ赤になっていました。今思うと、戦時中はいろいろな苦勞がありましたが、戦場に行っていらいしゃった兵隊さんの苦勞を思うと、比べようがないと思っております。

終戦後、結婚をしましたが、夫は中支(支那)の戦場に行っていた時に発症した病気が原因で、日本に帰ってから事後重症で亡くなりました。その手続きには大変苦勞をしましたが、軍医さんが名古屋の人で、その証明をいただき、いろいろな手続きを経て認められました。

一方では、夫に替わって生活の様々なことをどうするか考えると途方に暮れました。しかし、ここで踏ん張り、家のことはもとより、力作業が多く大変な農作業も、いち早く機械を導入し、何でも使えるようになり、その力を借りて乗り切ってきました。

遺族会の活動には、40年前から拘わらせていただけてきましたが、現在では、多くの役員さんが変わって、また、一緒に活動をしていた妻の方も少なくなっております。

戦時中は、学生でありながら勤勞報国隊として仕事をしたため、勉強もほとんどできませんでした。また夫が亡くなってからも、機械を使ったり、男の人と同じようなこともしなければなりません。その時は、苦勞、辛抱の連続でありましたが、今になって思えば、いろいろありましたが、損をしたのではなく、逆にどんな辛抱でもできる強さをもらい、一生の糧になったと考えています。

### 語り部事業のご案内

#### ●第28回 1月14日(土)

「赤い夕日の満州からシベリアへ」

原田 覚 (91) (三好市)

終戦後のシベリアでの凄絶な抑留体験についてお話頂きます。

#### ●第29回 2月11日(土)

「父との絆」

都築 幸栄 (79) (阿波市)

戦争で亡くなった父との思い出をお話し頂きます。

\*毎月第2土曜日に開催 (13:30~)

### ホームページ随時更新中!!

アクセス数 52,202

(H28.12.31現在)

各種行事、記念館の語り部事業、慰霊巡拝等の最新の情報をお知らせしています。

携帯・パソコンの検索欄に

徳島県遺族会 もしくは

徳島県戦没者記念館 で

検索

ホームページのアドレス

URL <http://izokukai.jp/>

## 靖国神社参拝団募集

私たちの肉親が眠る靖国の社は毎年、3月末から4月初旬にかけて一斉に桜が開花します。生前諸霊は「会いたくなったら靖国神社に来るように」と最後の言葉を残して戦場に赴いたと聞きますが、桜の花一輪一輪に亡き人の魂が宿っているように思われます。

徳島県遺族会はこの時期に会員の皆様と共に亡き人の面影を偲び、併せて御霊のご冥福を祈るために、靖国神社参拝を企画いたしました。この機会に是非ご参加頂き、当時の苦労話を語り合ってくださいと存じます。ご遺族は勿論、友人、知人の一般県民の方のご参加も歓迎いたします。

### 旅行日程/平成29年3月26日(日)~3月28日(火)

主な訪問地 東京都内(靖国神社団体参拝、東京オリンピックメモリアルギャラリー、すみだ北斎美術館)信州国際音楽村・無言館・生島足島神社・大法寺・上田城・上田市立博物館・信州善光寺 など

旅行代金 89,500円

募集人員 45名(最小催行人員25名)

締切期日 平成29年1月20日(金)ただし、満員になり次第締め切ります。

お申込先 〒770-8021 徳島市雑賀町東開21-1(護国神社内) 徳島県遺族会事務局 (TEL 088-636-3212)

月日(曜)	行 程
1 3/26 (日)	徳島空港 <sup>JAL454</sup> → 羽田空港 = 9:30 10:40/11:20 =靖国神社(昇殿参拝・遊就館拝観・昼食)= 11:50 14:30 【昼食:手配弁当(お茶付)】 =東京オリンピックメモリアルギャラリー=すみだ北斎美術館= 15:00 15:50 16:30 17:30 =東京都内(泊) 宿泊:ホテルグランドパレス 17:50頃 東京都千代田区飯田橋 1-1-1
2 3/27 (月)	(すいせん祭り) ホテル=関越・上越自動車道=信州国際音楽村= 8:30 11:30 12:10 =きのこむら深山(昼食)=無言館=生島足島神社= 12:30 13:30 13:40 14:50 15:00 15:40 【昼食:田舎きのこ汁膳】 =大法寺(国宝三重塔)= 16:00 16:30 =別所温泉(泊) 宿泊:臨泉楼 柏屋別荘 16:50頃 長野県上田市別所温泉 1640
3 3/28 (火)	ホテル=上田城・上田市立博物館=信州善光寺参拝= 8:00 8:30 10:00 11:00 12:00 =峠の釜めし本舗おぎのや長野店(昼食)= 12:30 13:30 【昼食:峠の釜めし御膳】 =上越・関越自動車道=羽田空港 <sup>JAL463</sup> → 徳島空港 17:00 18:05 19:20

### 遺族会の動き

平成二十八年十一月

十二月行事実施

#### (十一月)

2日 徳島県護国神社例大祭(護国神社)

4日 正・副会長会(護国神社)

8日 阿波市立八幡小学校来館(戦没者記念館)

12日 語り部事業(戦没者記念館)

14日 沖繩「徳島の塔」慰霊巡拝

22日 市町村会長会(護国神社)

28日 西条市(愛媛県)遺族会来館(戦没者記念館)

30日 女性部役員会(護国神社)

#### (十二月)

1日 21日 「徳島大空襲」パネル展(戦没者記念館)

4日 5日 中国・四国青壮年部有志の会(山口市)

10日 語り部事業(戦没者記念館)

14日 日本遺族会事務局長会議(千代田会館)

15日 全国戦没者遺族大会(自由民主会館)

### 平成二十九年一月~三月行事予定

7日 15日 第3回特別展「戦傷病者とその家族」

9日 正・副会長会議(グランドパレス)

14日 語り部事業(戦没者記念館)

15日 19日 グラム・サイパン・テニアン慰霊巡拝

#### (二月)

2日 3日 理事・監事・評議員研修会(かんばんの宿)

11日 語り部事業(戦没者記念館)

(三月)

11日 語り部事業(戦没者記念館)

24日 理事会・戦没者記念館奉賛会総会(護国神社)

26日 28日 靖国神社参拝